

チームワークにより利用者も家族も共に支えることが出来ます

神奈川県横浜市

茶話本舗デイサービス十日町市場

管理者 ○若林 麻子

白石 金子

富井 春華

1 はじめに

当事業所は理念に「利用者様とそこご家族が笑顔で日々の生活を過ごしていただけるためサービスを追求する」と掲げております。

認知症を患っている高齢者が住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らしていけることを支援していくと同時に家族の支援にも力を注いでいます。

チームで理念に近づける事を目標にしています。

2 事例や取組の紹介

認知症の周辺症状が強いSさんは自宅で夜間眠ってくれないそうでご家族は困っていました。

眠剤を服用する事から夜中ふらつき転ぶこともよくあったそうで、声を掛けても探し物をしたり片づけ物をしていて寝てくれないそうです。家族は夜間の介護に疲れショートステイを試みたそうです。しかしどこの施設でも1回利用すると断られてしまったそうで家族は原因を説明してくれない施設に戸惑ってしまいました。「もう自宅で私たちが寝ないでみるしかない」とうつ症状が出てきたようでした。施設の職員からは「大きな声で他の人に話しかけるんですよ・・・」とだけ言われたといいます。「ケアマネジャーが紹介してくれた茶話本舗でダメだったらもうおしまいだ」と息子様ご夫婦は思っていたそうです。家族は事業所からアセスメントに伺った時相談員に「すみません、すみません」と何度も言っていました。

当事業所としてご家族に「断られてしまう原因を見つけてみませんか？そしてどんな風に他の人に迷惑をかけてしまうのかを調べませんか？そしてどうしたら泊まれる様になるのか考えさせてくれませんか？」と提案しました。ご家族は「分かりました。それでダメならあきらめます」と仰いました。

私たちチームは「どうして断られてしまうのか？どうしたら家族の介護負担を減らし家族支援ができるのか」という追求を始めました。

取組としては1. どんな認知症の周辺症状があるのか 2. その周辺症状が他者やスタッフにどんな影響を与えているのか 3. その周辺症状がどんな時に起こるのかまたどんな時に起こらないのか 4. 家族にどんな報告をしなければならぬか、どうすれば家族の介護軽減につなげる事ができるか 以上をチームみんなで観察して意見交換するようにしました。チーム全員で観察を始め、まずは氏の傾聴から始めました。大きな声で怒り出す時、嬉しくて泣くとき、スタッフに感謝するとき、困りながらウロウロするときのきっかけをつかみアセスメントと実際のケアでつかんだ情報を共有しタイミング良く不穏になる前に笑顔に変える事ができました。

不穏状態が続く時には時間を置いたり、スタッフを変えたり対応しました。

入浴拒否が強い時の誘導の方法もすぐにわかりSさんの好きな声の掛け方がわかりました。ご家族に対しデイサービスで落ち着いているSさんのご様子についてノートでご報告しても「本当はご迷惑かけていますよね・・・。すいません、ご迷惑ならすぐに迎えに行きますから」と繰り返すばかりでした。そしてぐっすり眠れる夜はまだないと仰っていました。ご家族に安心して頂くためにはどうしたら良いか考え、ご家族をご招待しSさんがとても落ち着いて楽しまっている姿をご一緒に体験して頂く事にしました。大きな声で他者に話しかけ周りを巻き込みそうになった時のスタッフの声掛けを見て頂いた。

ご家族がお帰りになる時Sさんとスタッフ全員で手を振ると「ここは素晴らしい所ですね」と仰っていました。

ご利用を始めてから1か月後「Sさんが他施設で断られてしまった原因」についてご家族に事業所として考えられた事をお伝えしました。

- ・大きな声でしつこく話しかけてしまう
- ・スタッフが馬鹿にした対応をしたと勘違いして大きな声で不満を言う
- ・帰宅願望
- ・薬拒否
- ・強い入浴拒否

そして周辺症状について説明し、強い周辺症状が他施設で断られた原因なのではないかという説明もしました。「しかし環境で認知症の方の周辺症状は変わるんです」と言う事も付け加え説明しました。チームでSさんに対しそれらの周辺症状に対し統一したケアを実践しました。

3 考察

正しいアセスメントと情報の共有と統一したケアによる環境整備が認知症の方の介護には欠かせないと感じました。「雑音」を減らすことによりBPSDも劇的に減らすことができました。

施設に入所せず、家族で認知症の介護をするということはどれだけ大変なことか思い知らされます。

4 おわりに

Sさんご利用初日から泊まる事が出来ていて週に1回泊まっています。夜間は概ね眠っており自宅で夜間ウロウロしていたような行動はありません。また、不穏なときがゼロではありませんがSさんへのアプローチの仕方をチームで統一しているので乗り越えられています。入浴もたまには入れないこともありますが大声を出すこともなく過ごされています。友人もでき、皆さんと同じレクにほぼ参加できています。ご家族はSさんが居ない夜は眠れるようになったそうです。しかし今だ「本当は大変なんですよ。うちの様子をみているとどんなに大変か分かります。ありがとうございます。」と送迎の度に仰っています。

Sさんのご家族だけでなく認知症介護で困っているご家族は沢山いると思います。当事業所では同じ様な事例が何件かあります。

私たち専門職が余すことなく知恵を絞って協力することにより高齢者が住み慣れた地域でより長く生活を営んでいくことが出来るのだと思っています。

これからも高齢者のため、ご家族のため、地域のために貢献していきます。